

新

川端龍子生誕140年特別展

川合玉堂と川端龍子

Special Exhibition Commemorating the 140th Anniversary of Kawabata Ryushi's Birth:
"Kawai Gyokudo and Kawabata Ryushi"
October 11 (Sat) ~ November 9 (Sun), 2025 Ryushi Memorial Museum

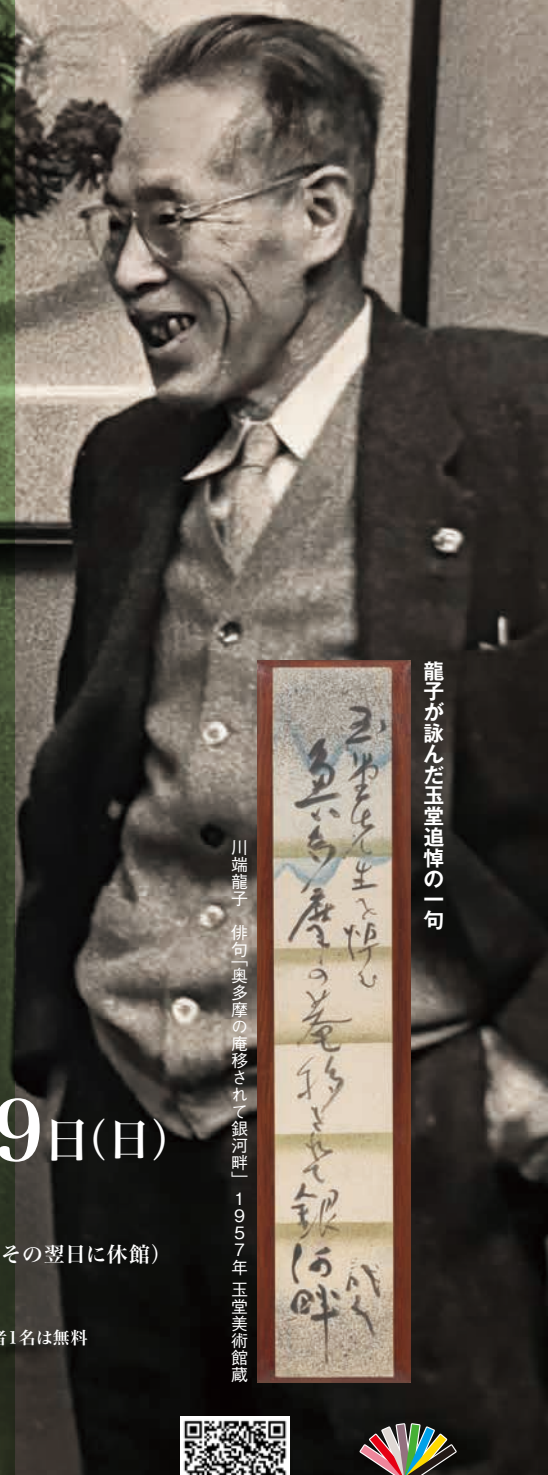
玉堂



若き日に描いた鶴飼の一作

川合玉堂 鶴飼 1896年 玉堂美術館蔵

談笑する玉堂(写真左)と龍子(写真右) 昭和30年頃



龍子が詠んだ玉堂追悼の一句

川端龍子 俳句「奥多摩の庵移されて銀河畔」 1957年 玉堂美術館蔵

2025年10月11日(土)~11月9日(日)

開館時間 9:00~16:30(入館は16:00まで)

休館日 月曜日(10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝))は開館し、その翌日に休館)

入館料 一般800円 小中学生400円

※65歳以上、未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

主催 (公財)大田区文化振興協会、日本経済新聞社

大田区立龍子記念館

〒143-0024 東京都大田区中央4-2-1



えがくかなでる ひびく
公益財団法人 大田区文化振興協会

川端龍子生誕140年特別展
2025年10月11日(土)~11月9日(日)

Special Exhibition Commemorating the 140th Anniversary of Kawabata Ryushi's Birth: "Kawai Gyokudo and Kawabata Ryushi" October 11(Sat)~November 9(Sun), 2025 Ryushi Memorial Museum

川合玉堂と川端龍子



川合玉堂《鶉飼》1951年、水野美術館蔵



川合玉堂《高嶺残雪》1907年頃
パラミタミュージアム蔵



川合玉堂《彩雨》1940年、東京国立近代美術館蔵



川端龍子《菊三茎》制作年不詳
青梅信用金庫蔵



川合玉堂《稲田の鶴》1928年
公益財団法人 北野美術館蔵



川合玉堂《雨後》1957年、玉堂美術館蔵

龍子公園のご案内

隣接する龍子公園では、龍子構想による旧川端龍子邸と画室(いずれも国の登録有形文化財(建造物))を、開館日に外観からご覧いただけます。

ご案内時刻(1日3回、各回30分程度)

10:00、11:00、14:00に開門します。

Ryushi Garden Guided Tour 10:00,11:00,14:00 ~



画室

関連イベント

■生誕140年特別展講演会「川合玉堂と川端龍子」

日時:2025年10月18日(土)13:30~15:10

定員:100名(申込みが定員を超えた場合は抽選)

参加費:無料 会場:大田文化の森 5階 多目的室

お申込み方法:右の二次元コードからお申込みいただけます。

締切:10月6日(月)

※イベントカレンダーから、10月18日開催の特別展講演会を選択してください。



■ギャラリートーク

10月12日(日)、19日(日)、11月2日(日) 各日13:00~(40分程度)

■「東京文化財ウィーク2025」特別公開事業

10月25日(土)、26日(日)、11月1日(土)~3日(月・祝) 各日10:00~15:00

龍子公園を開放し、園内を散策しながら国の登録有形文化財に指定された旧川端龍子邸、画室等を外周からご覧いただけます。

今年、日本画家・川端龍子(かわばたりゅうし1885-1966)が、生誕140年を迎えました。それを記念して龍子記念館においては、川合玉堂(かわいぎょくどう1873-1957)と龍子の交流を紹介する展覧会を、玉堂美術館の協力を得て開催します。日本の自然や人々の暮らしを詩情豊かに描いて名匠と称えられた玉堂と、大画面の作品で日本画表現の革新に挑んだ龍子との間には、画風の上からは大きな隔たりがあるように見えます。しかし、戦後、二人は俳句好きであることを通じて親睦を深めたのです。玉堂の暮らす奥多摩に龍子が訪れるほどの仲で、玉堂がこの世を去った際に、龍子が葬儀委員長を務めるほどの絆がありました。

本展では、明治期の《高嶺残雪》(1907年頃、パラミタミュージアム蔵)から、文化勲章受章年に発表した《彩雨》(1940年、東京国立近代美術館蔵)、太平洋戦争末期の《荒海》(1944年、山種美術館蔵)、そして、絶筆の一つとされる《雨後》(1957年、玉堂美術館蔵)まで玉堂の生涯の制作を回顧し、最晩年に玉堂、龍子に横山大観が加わり開催された三巨匠展の作品等を展示します。また、玉堂が繰り返し描いた「鶉飼」については、明治期から晩年までの4点を展示し、龍子の大作《海鶴》(1963年、大田区立龍子記念館蔵)とともにご覧いただけます。ほがらかな性格で洒落なユーモアにあふれる玉堂と、情熱的で少し口下手な龍子との雅趣あふれる交流を、二人の作品をとおしてお楽しみください。

主催:(公財)大田区文化振興協会、日本経済新聞社

■当館へのアクセス



●JR京浜東北線 大森駅西口から東急バス4番
「荏原町駅入口」行乗車「白田坂下」下車、徒歩2分

●都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から
南馬込桜並木通り(桜のプロムナード)に沿って徒歩15分

Access

Ryushi Memorial Museum

4-2-1 Chuo, Ota-ku, Tokyo 143-0024
TEL:050-5541-8600

・From JR Keihin-Tohoku Line Omori Sta. West Exit, take Tokyu Bus No.4 towards Ebaramachi Sta. Entrance, get off at Usuda-Sakashita bus stop and walk 2min.
・15-min. walk from Toei Asakusa Line Nishi-Magome Sta. South Exit

Information

Opening Hours 9:00-16:30 (entrance closes at 16:00)

Admission Adults:800yen, Minors:400yen
Children under 6 and seniors over 65 are free

Closing Days Mondays (When a national holiday falls on a Monday, the Museum will be open and close on the following day)

次回展の予定

名作展 2025年12月6日(土)~令和8年3月8日(日)[予定]
龍子記念館が所蔵する川端龍子の大画面の作品を中心に、龍子の画業や芸術観を紹介します。

大田区立龍子記念館

〒143-0024 東京都大田区中央 4-2-1

ハローダイヤル:050-5541-8600

記念館直通:03-3772-0680

<https://www.ota-bunka.or.jp/facilities/ryushi/> 公益財団法人 大田区文化振興協会



えがくかなでる ひびく